

醜酔

無機的な幻滅が私を取り囲む
中世のヨーロッパのような醜酔の時代

見よ
互いに無縁な、しかも膨大な帰結

抜け出ようとする者が
ふいに回れ右をする 無意識に

許さない
許されない

一方で生の果てしない延長を望み
もう一方では生の解消を望む

取り残された本能が身悶え
信号を頼りに喘ぎを交歓する

高純度な美であり、同時に
羽化そのものを失った美

それら膨大で独立した帰結を
微かに引き寄せあう引力とは何か

第二のルネサンス
その姿は未だ現われていない

(2009.2.7)